

でんち

一般 電池工業会
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2022年3月

第 135 回理事会を開催

2022年3月11日(金)、一般社団法人電池工業会 第135回理事会がWeb会議で開催された。定款に基づき村尾修会長(株式会社GSユアサ)が議長となり、第1号議案から第3号議案まで審議され、提出された議案はすべて承認可決された。

また、第4号議題から第8号議題について報告され、報告事項は確認された。



1. 審議事項

- (1) 第1号議題 2022年度事業計画(案)の件
専務理事より2022年度事業計画(案)が説明され、原案通り承認可決された。
- (2) 第2号議題 2022年度事業予算(案)の件
専務理事より2022年度事業予算(案)が説明され、原案通り承認可決された。
- (3) 第3号議題 会員入会の件
専務理事より賛助会員2社の入会申請について説明され、原案通り承認可決された。

(賛助会員)

(敬称略)

会員名	会員代表者	入会日
株式会社 UL Japan	木下 喬太 (コンシューマ機器事業部 課長)	2022.4.1
松田産業株式会社	松田 芳明 (代表取締役)	2022.4.1



2. 報告事項

- (1) 第4号議題 職務執行状況の件
専務理事より、会長、副会長及び専務理事の職務執行状況の報告を行った。
- (2) 第5号議題 会員名変更の件
専務理事より、以下の通り会員名変更の報告を行った。

(敬称略)

	新 登録会員名	旧 登録会員名	変更年月日
正会員	マクセル 株式会社	マクセルホールディングス 株式会社	2021. 10. 01
	エナジーウィズ 株式会社	昭和電工マテリアルズ 株式会社	2021. 12. 01
賛助 会員	RX Japan 株式会社	リードエグジビション ジャパン株式会社	2021. 7. 15
	エンテックアジア 株式会社	日本板硝子 株式会社	2021. 9. 1
	ライベントジャパン 合同会社	エフエムシーリチウム ジャパン株式会社	2021. 12. 15

(3) 第6号議題 会員代表者名変更の件

専務理事より、以下の通り会員代表者名変更の報告を行った。

(敬称略)

	登録会員名	新 代表者	届出日
正会員	エナックス株式会社	櫻井 信昭 (代表取締役)	2021. 6. 25
賛助 会員	帝人株式会社	吉本 大士 (電池部材事業部長)	2021. 7. 1
	田中化学株式会社	横川 和史 (代表取締役社長)	2021. 7. 13
	RX Japan株式会社	田中 岳志 (代表取締役社長)	2021. 7. 25
	ソニー株式会社	加藤 篤 (品質保証部統括部長)	2021. 8. 27
	ティーエムシー株式会社	宮脇 大士 (代表取締役社長)	2021. 11. 1

(4) 第7号議題 退会の件

専務理事より、以下の通り退会の報告を行った。

(賛助会員)

(敬称略)

会員名	退会年月日
株式会社三徳	2021. 03. 31
テュフ ラインランド ジャパン株式会社	2021. 03. 31
エス・イー・アイ株式会社	2022. 03. 31

(5) 第8号議題 事務局職員交代の件

専務理事より、着任出向職員 5 名、帰任出向職員 5 名の報告を行った。

以上、第4号、第5号、第6号、第7号、第8号議題に関する報告に対し、確認された。



第 102 回二次電池第 2 部会を開催

2022 年 2 月 15 日 (火)、黒葛原会長 (株式会社 GS ユアサ) を議長に第 102 回二次電池第 2 部会を Web 会議で開催した。開会に際して、事務局より BAJ 競争法コンプライアンス・ルールを遵守することが確認されたのち、黒葛原部会長ならびに清水専務理事の挨拶があった。続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より 2021 年度事業報告、2022 年度事業計画の報告を行った。

1. 黒葛西部会長挨拶

2022 年度事業計画については、今年度の実績を踏まえて、来年度の目標設定と取組内容を整理して報告をお願いします。

2. 清水専務理事挨拶

21 年度はコロナ影響で海外出張が大幅に減少したが、活動についてはしっかりやっていると認識している。

22 年度予算は Web 会議の導入により費用圧縮はできていると考えている。詳細についてはしっかり確認いただきたい。

来年度は組織の一部を見直している。背景には、経産省の電池産業室新設により、車載、大型蓄電について加速する方向で、グローバルで競争力を高めることが重要になる。また、蓄電池戦略官民協議会がスタートしており、それらに対応する為に電池産業協議会(案)を設けようと考えている。

3. 各委員会報告

各委員会より、2021 年度事業活動、2022 年度事業計画が報告された。

- ◆技術委員会
- ◆国際電池規格委員会
- ◆国際電池輸送委員会
- ◆普及促進委員会
- ◆駆動用車載 LIB 委員会
- ◆PL 委員会
- ◆再資源化委員会
- ◆広報総合委員会
- ◆国際環境規制総合委員会

4. 2022 年度 部会組織及び予算案

◇部会組織案

駆動用車載 LIB 委員会を発展的解消し、技術委員会リユース規格分科会および新設する蓄電池産業協議会へ機能移管する。

蓄電池産業協議会は理事会傘下なので、理事会承認案件となります。

⇒ 駆動用車載 LIB 委員会の発展的解消、技術委員会リユース規格分科会への機能移管は承認。

◇予算案

2022 年度予算案を承認。

5. JBRC 報告

I. 会員状況報告

II. 回収状況 (2021 年度 3Q 実績) 報告

III. 具体的施策実施内容

1. 小型充電式電池の安全な回収・収集運搬業務の強化

(1) 安全回収体質のさらなる強化

(2) 会員登録報告

(3) 排出者登録数報告

(4) 回収推進策報告

2. 管理・運營業の盤石化

(1) 排出事業者からの年間登録管理費徴収のためのシステム準備

(2) オペレーターによる電話回収受付停止 (2022 年 1 月～)、Web 受付・自動電話で対応

(3) 経産省主催「資源有効利用促進法の在り方に関する検討会 (第 2 回)」参加

6. その他審議事項

1) 2021 年度版「蓄電池の普及促進に関する提言」(最終版)を承認。

7. 事務局報告

1) 2022 年度日程

第 103 回 : 2022 年 6 月 3 日(金) 13:30~16:30

第 104 回 : 2022 年 9 月 9 日(金) 13:30~16:30

第 105 回 : 2022 年 11 月 25 日(金)13:30~16:30

* 上述 3 回は Web 会議

第 106 回 : 2023 年 2 月 10 日(金) 13:30~16:30

* Web 会議 or 機械振興会館

2021 年度第 4 回一次電池部会を開催

2022 年 2 月 16 日（水）、成重部会長（FDK 株式会社）を議長に 2021 年度第 4 回一次電池部会を Web 会議で開催した。

開会に際して、成重部会長より BAJ 競争法コンプライアンス・ルールに則り、部会進行する旨の宣言がなされた。清水専務理事の挨拶、続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者による 2021 年度活動報告、2022 年度事業計画の報告を行った。

1. 清水専務理事挨拶

2021 年度は、コロナ影響で出張等がなくなり Web 中心の活動であったが、JIS や IEC の規格推進を見る限りは、大きな問題もなく実践頂いたと認識している。

2022 年度は、ほぼコロナ前の活動に戻つつある内容で検討頂いている。コロナの状況を読むのは大変難しいが、しっかり内容を吟味して推進していただきたい。

2. 各専門委員会の活動報告について

① ボタン電池回収推進委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 2021 年度 活動総括
 - ・実績：協力店微増、回収量増加。
 - ・サンプリング調査の結果報告。
- * 2022 年度 事業計画
 - ・協力店微増、回収量は今年度並みを計画。
 - ・サンプリング調査を継続。

② 器具委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 「電池器具安全確保のための表示に関するガイドライン」の改訂進捗
- * BAJ HPI「携帯電灯の正しい使い方」、「携帯電灯の歴史」の改訂進捗
- * 2022 年度の委員会体制、取り組み、委員会日程

③ 資材委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 主要 4 材料（亜鉛・リチウム・ニッケル・コバルト）の需供・価格動向の調査結果
- * 新たに掲載されたコンプライアンス情報は 1 件（21 年度報告は計 4 件）
- * 21 年度の独立行政法人 JOGMEC（資源開発）との意見交換会は中止
- * 2022 年度の委員会体制、取り組み、委員会日程

④ 消費者委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 災害時等の支援物資供給可能量の定期更新予定
- * 2021 年度支援物資供給要請の実績報告
 - 2021 年度は支援要請無し。
- * 2022 年度の委員会体制、取り組み、委員会日程

⑤ PL 委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 2020 年度 会員会社 6 社のクレーム情報の収集および傾向分析の結果
- * BAJ web サイト内容の改訂進捗
- * 事故情報の共有結果（2021 年度実績：NITE 速報 3 件、国民センターの事故情報 8 件）
- * 2022 年度の取り組み

⑥ 技術委員会

下記の報告があり、承認された。

- * 2021 年度活動報告
 1. JIS 規格原案作成
 - ・JIS C 8500 と JIS C 8515 は、2021 年 11 月に最終原案を JSA に提出済。
 2. IEC/TC35（一次電池）国際規格原案作成 次版の改訂にむけた課題整理
 3. IEC/TC35（一次電池専門委員会）幹事国業務の推進と国際会議への参画。
 4. リチウム電池輸送規制対応 次版の改訂にむけた課題整理
 5. コイン形リチウム二次分科会 腕時計用の要求を加える検討実施
- * 2022 年度活動計画
 1. JIS 規格原案作成 JIS C 8514 改正を計画
 2. IEC/TC35（一次電池）国際規格原案作成 次版の改訂にむけた課題整理

3. IEC/TC35（一次電池専門委員会）幹事国業務の推進と国際会議への参画。
4. リチウム電池輸送規制対応 リチウム一次・二次電池輸送安全規格 第5版の改訂にむけた課題整理
5. コイン形リチウム二次分科会 コイン形リチウム二次電池の性能規格 第2版の改訂にむけた課題整理

⑦国際環境規制総合委員会

下記の報告があり、承認された。

* 地域別環境規制アップデート

- ・欧州：閣僚理事会が EU 電池規則案の修正案を閣僚理事会 web サイトに掲載。
- ・北米：米 OSHA、危険有害性周知基準(HCS)のリチウム電池への適用について解釈を公開。
- ・アジア：特記事項なし。
- ・中南米：ホンジュラスが水俣条約準拠の法令を公布。

* 2021 年度 活動総括

- ・冊子「世界の電池環境規制の動向（第11版）」の追補電子版を5月発行。
- ・2回の海外出張はコロナ禍で中止。
- ・委員会9回は全て Web 開催。

* 2022 年度 事業計画

- ・冊子「世界の電池環境規制の動向（第12版）」の書籍版を6月に発行。
- ・国際会議：ICBR（国際電池リサイクル会議。9月、ザルツブルク）と TWG+（日欧米電池専門家会議。時期未定、国内開催）への参加を計画。
- ・委員会は Web7 回、対面 2 回（リサイクル工場視察を含む）を計画。

⑧広報総合委員会

下記の報告があり、承認された。

* 2021 年度事業報告

○キャンペーン・PR 活動

・啓発キャンペーン

- (1)「正しく使いましょうキャンペーン」
- (2)「電池月刊 PR キャンペーン！」
- (3)「でんち川柳コンテスト」
 - ・一次電池：「コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止」：都営新宿線、大阪モノレール、「ひよこクラブ」
 - ・二次電池「自動車用バッテリーの定期点検・買替促進」：「プロ野球最優秀バッテリー賞」、「スポーツニッポン」、「農村ニュース」、「農機新聞」、「JACLA プレミアム」

・小型二次電池：「小型二次電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起」：名古屋地下鉄、福岡地下鉄、「サンデー毎日」

○展示会・イベント活動

- ・電池フェスタ：21年度の開催を中止。
- ・手づくり乾電池教室：計画30件に対し17件実施
- ・エネルギー体験教室：11月に1件実施。

○情報発信

- ・BAJ 新 HP4 月開設。更新作業一部内部取込。
- ・機関紙「でんち」：作成・HP 配信を内製化。
- ・「もっと知ろう！おウチで電池！」の誘導広告実施。
- ・3大テーマの新規チラシ作成。We LOVE DENCHI イベント用パネル、チラシの更新・改訂を随時実施。

*2022 年度事業計画

○キャンペーン・PR 活動

・啓発キャンペーン

- (1)「正しく使いましょうキャンペーン」
- (2)「電池月刊 PR キャンペーン！」
- (3)「でんち川柳コンテスト」
 - ・一次電池：「コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止」を訴求
 - ・二次電池「自動車用バッテリーの定期点検・買替促進」を訴求
 - ・小型二次電池：「小型二次電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起」を訴求

○展示会・イベント活動

- ・電池フェスタ：計画1件
- ・手づくり乾電池教室：計画30件。
- ・エネルギー体験教室：計画2件

○情報発信

- ・BAJ HP
- ・機関紙「でんち」の配信（12回/年）
- ・啓蒙用小冊子・3大テーマチラシ・展示パネル
- ・広報総合委員会：毎月実施、

3. 事務局報告

1) 統計データ報告

2021 年度 1Q～3Q（4月～12月）の電池販売数量・金額実績について報告。

2) 次回開催日程

2022 年 6 月 22 日（水）13:30～
東京 機械振興会館

2021 年度第 2 回二次電池部会を開催

2022 年 2 月 17 日(木)、澁谷部会長 (GS コアサ) を議長に第 2021 年度第 2 回二次電池部会を Web 会議で開催した。

開会に際して、事務局より BAJ 競争法コンプライアンス・ルールを遵守し運営することが確認されたのち、澁谷部会長ならびに清水専務理事の挨拶があった。

続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より 2021 年度活動報告および 2022 年度事業計画が報告された。

1. 澁谷部会長挨拶

コロナ蔓延により、本会議がリモート形式にせざるをえなかったことが非常に残念です。

このところカーボンニュートラル、バッテリー議連、など国策として Li-ion が主体だと思われる電池への予算付けが議論されてきているが、それを収益として支えている鉛電池が今後も 10 年以上は継続していくと思う。これから鉛電池が見直されてくるかと思うので、鉛規制等に対しても注視していきたい。

2. 清水専務理事挨拶

本日の会議の大きなポイントは 21 年度の活動総括と 22 年度の事業計画の検討となります。21 年度予算実績はコロナの影響で海外出張等がなくなったことが影響しているが、規格化等の活動については大きな遅れもなくやっていただいていると認識している。22 年度予算は Web 会議等の活用を取り入れながら、コロナ前の活動を取り戻す内容になっている。詳細はこの後説明されるので、しっかりとした議論をお願いする。

3. 前回議事録確認

前回議事録は、異議なく承認された。

4-①. 各委員会 21 年度活動及び 22 年度事業計画報告

各委員長より 2021 年度活動実績および 22 年度事業計画の報告がされた。

◆広報総合委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認され、承認された。

<主な報告>

・展示会・イベント関連；コロナの影響もあり、電池フェスタについては今年度も中止、手作り乾電池教室は計画 30 件に対して 17 件の実施、エネルギー体験教室は計画 2 件に対して 1 件の実施となった。

・キャンペーン・PR 活動；乳幼児誤飲防止の交通報告、小型二次電池能リサイクル啓発記事広告等について報告された。また、新たな活動として「でんち川柳コンテスト」を実施しており、予想を大きく上回る 2700 名超の応募をいただいた。電池が身近な商品である故か親しみを込めた川柳が多くあった。選定が終わり、結果を HP に載せていく。

・鉛電池に関しては、点検、早期交換啓発広告として、スポニチ新聞等 4 件に掲載した。

・啓発キャンペーンとして、小型二次電池(Li-ion)廃棄物収集時の発火事故の頻発を受けて、雑誌への啓発広告掲載などの活動を実施した。

・情報発信としては、新たな取り組みとして YouTube 動画を制作、誘導広告等の成果として想定比で 2 倍以上となる 26.2 万回の再生回数が獲得できた。

・22 年度事業計画は基本的には 21 年度計画を踏襲している。今年度こそ face to face となる貴重な機会であるでんちフェスタの再開、電池教室の回数増加を果たしたい。

◆国際環境規制総合委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認され、承認された。

<主な報告>

・国際会議(ICBR)への参加についてはコロナで不参加。

・欧州；EU から出された全 PFAS 規制に対して電池の適用除外を獲得できるよう意見書を提出

・欧州電池規則；活動主体である環境・公衆衛生・食糧安全委員会(ENVI)から報告書草案が提出された。この草案は欧州議会全体の基礎となるもので、今後 ENVI での採決、欧州議会での採決、EU 理事会との交渉となる。

・北米；米メイン州で全 PFAS 含有製品の使用を規制する法律が全米で初めて成立

・22 年度計画として、①「世界の電池環境規則の状況」冊子第 12 版を 6 月発行、②国際環境関連会議(TWG+・ICBR)に参加

◆資材委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認さ

れ、承認された。

<主な報告>

- ・共有金型管理状況について資料に基づき報告。更新確認 4 件、完了 1 件、検討中 2 件。
- ・金型費用を員数で償却できないかの検討を開始したが、業者より初期金額負担が大きく運用が困難との回答を得たため、不採用で検討終了。
- ・22 年度についても共有金型管理を継続

◆自動車用鉛電池リサイクル委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認され、承認された。

<主な報告>

- ・2021 年度 SBRA リサイクルシステムの運用状況報告；資料に基づき報告された。地域で見ると関東甲信越の増加が顕著、業種で見るとカーディーラー、タイヤ店、ホームセンターが増加している。
- ・21 年度回収量については前年並みが見込まれる。
- ・21 年度委託先監査については、18 社について SBRA で訪問監査、その他は書面監査を実施
- ・22 年度活動も 21 年度同様の活動を継続する

◆二次電池技術委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認され、承認された。

<主な報告>

- ・各活動テーマの進捗状況については資料に基づき報告された（主な内容は以下の進捗）。
- ・IEC60095(自動車始動用)シリーズ 補機用 関連
- ・JIS D5302(二輪始動用)、C8704(据置鉛) 関連
- ・SBA S0405(用語集)、G0202(小型制御弁式鉛取り扱い指針)、G0304(制御弁式鉛取り扱い指針)、G0902(浮動充電用整流装置技術指針) 関連
- ・重要テーマ・トピックスとして、以下 3 点が報告された。
- ①自動車用・二輪車用 鉛電池 IEC 規格改定・新規制定対応(IEC60095 シリーズ)；補機用電池規格がワークショップで進行中、当初複雑な評価条件が提示されていたが日本側から従来通りの評価方法（定電流による I-V 特性評価）を提案し、一定の理解を得た。自動車技術会 (JSAE)との会議が 9 月以降開催できておらず、すり合わせが必要。規格策定が具体的にいった段階で自鉛分科会傘下に TF 設置を検討する。
- ②電池種類 識別記号表示 (IEC62902) 改訂チームが発足、「表示の背景色はバッテリーケース色と異なること」の削除を求め参画し対応しており、エキスパート宛てに出されたアンケートには個別ではなく全体として取りまとめて回答（内

容は資料参照）を実施しているが、結果について議論はされたが結論は出ていない状況。

- ・22 年度活動計画；21 年度活動を継続する、①国際会議(IEC 会議等) 延べ 6 名出張、国内会議は web 活用、②JIS 規格改正・制定の予定がなく、SBA 規格改正を主に実施、③欧州電池規則については具体的な要求事項が出たのち対応検討。

◆PL委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認され、承認された。

<主な報告>

- ・2021 年度活動実績について資料に基づき報告された。
- ・自技サ分科会が中心となって実施している自動車用鉛電池の事故防止啓発活動について、①転倒防止リーフレット完成、②自動車用バッテリーの知識の改正作業 継続中。
- ・有毒ガスの発生事故防止の啓発活動；電池過充電要因の有毒ガス発生による事故が発生しており、その対策検討を開始。表示ガイドラインの改訂、RV 協会との協働での啓発活動などを想定している。
- ・始動用鉛電池の 21 年度爆発件数は 20 年度より低下傾向で、用途別でも特異な事象が認められない状況であり、監視を継続する。爆発要因は従来と同じく液切れであり、引き続きそれに焦点を当てた啓発活動を実施していく。
- ・22 年度については、21 年度活動を基本継続していくが、特に有毒ガス事故防止啓発活動に重点を置いて実施していく。

◆産電リサイクル委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認され、承認された。

<主な報告>

- ・広域認定変更申請については、9 月に環境省本省の審査が完了。広域認定変更申請については、昨年度からコロナ禍影響で行政承認に大幅な遅れが生じており、省へのプッシュを継続する。
- ・アルカリ電池の広域処理先であった東邦亜鉛が行政処分により除外されたため代替検討しているが、検討を進めてきた会社は情報開示に不足があり検討を中断。
- ・昭和電工マテリアルズ株式会社の蓄電デバイスシステム事業の一部がエナジーウィズ株式会社に譲渡されたことへ対応する為、広域認定申請の進め方について環境省に問い合わせ、対応方針を決定。
- ・広域回収量、小型制御弁式電池回収量を資料に基づき報告。
- ・22 年計画として、引き続き広域認定の維持、回収量の集

計と関連省への報告等は実施するが、特に EW 社事業継承に伴う新規申請については広域回収実務への影響が出ないよう注意して進めていく。

◆環境委員会

21 年度活動報告内容、22 年度事業計画が確認され、承認された。

<主な報告>

- ・欧州 ELV 情報；現行法に対する評価結果が欧州委員会の正式なコンサルタントから報告があり、鉛電池については始動用の 12V 電池については適用除外継続、その他については適用する、との推奨がされた。
- ・欧州新電池規則案対応；大きな動きはなし
- ・SDS ガイドライン改訂；関連 JIS の改訂に伴った改正

(第 5) 版完成。

- ・22 年度活動計画として、欧州電池規則を含めた鉛電池へ影響のある国内外の環境規制情報の収集および対応を引き続き継続していく。

4-②. 審議事項

- ・2022 年度 事業計画案及び予算要求表；2021 年度事業報告、2022 年度事業計画および 2022 年度予算について事務局より報告された。22 年度計画についてはコロナの状況が収まり海外出張等が可能となることを前提として、web 会議の活用を含めたとの説明がなされた。
- 部会委員により、異議なく承認された。



体感イベント「Feel the battery 2022」協賛

電池サプライチェーン協議会が主催し、電池工業会が協賛した、電池展示とEV 試乗を兼ねた体感イベント「Feel the battery 2022」を実施した。これは、車載電池および大型蓄電の普及を加速し、国策との連携を強化する事を目的としている。

1. 概要

- ・名称：体感イベント Feel the battery 2022
(主催：電池サプライチェーン協議会/協賛：電池工業会)
- ・日程：2022年3月8日(火) 14:45-17:40
- ・会場：グランドニッコー東京台 29F、ホテル前エントランス
- ・目的：電池産業に対する応援の獲得/バッテリーが生み出す“力”を体感頂き、電池に対する理解を深めて頂く
- ・対象：政府関係者 18名 (バッテリー議員連盟、経済産業省 電池産業室/自動車課)、マスメディア (NHK、日経)、特別メンバ (早稲田大学 所教授他)

当初計7名程度の議員が参加予定であったが、当日に国会本会議が入った影響により、計4名の議員に参加頂いた。経済産業省からは、自動車課/電池産業室中心に計10名様に参加頂いた。

2. EV 試乗会

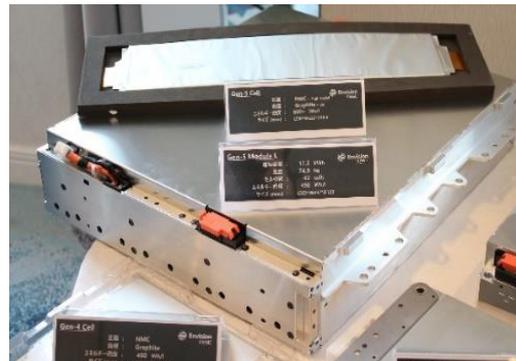
試乗車種は、Tesla Model3、Nissan Leaf、Lexus UX300e、Mazda MX-30、Honda e、Prius PHV の合計6台で、3つの時間枠を設け、対象者の皆様には2台のEV車に試乗頂いた。



3. 電池展示

EV 試乗と同時に、早稲田大学ならびに、パナソニック、エンビジョン AESC ジャパン、プライムプラネット エナジー&ソリューションズの電池メーカー計3社の展示を実施。また、電池に

関する質疑応答・意見交換を行い、ご参加頂いた議員/経済産業省の皆様へ、より深く電池を理解頂く機会とすることができた。



当イベントの最後には、三宅伸吾参議院議員 (自民党 バッテリー議員連盟事務局長) からのご挨拶で締め括って頂きました。

2022年2月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	2日(水)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	福岡県会場の修了考査判定の審議。
	4日(金)	広報総合委員会	でんち川柳コンテスト来年度に向けての見直し点の確認、パネル・ポスター、印刷ブルのデザイン確認、他。
	16日(水)	蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備の資格登録の審査、型式認定の審査。
	18日(金)	調査総合委員会	自主統計データ内容協議、内部監査結果の報告。
	22日(火)	新種電池研究会	新種電池に関する情報交換、講演会検討。
二次電池部会	4日(金)	自動車鉛分科会	IEC 自動車補機用電池規格の素案審議。
	15日(火)	据置鉛分科会	SBA G0302 改定審議。
	16日(水)	自動車技術サービス分科会	TS-004改定審議。
	17日(木)	二次電池部会	各委員会から21年度実績等報告、二次部会22年度事業計画、予算審議、他。
	18日(金)	小形鉛分科会	IEC 61427-2 改定審議。
	18日(金)	充電器分科会	9資-04改正審議、他。
	22日(火)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域認定状況確認、新規申請方法審議、他。
	25日	電気車鉛分科会	SBA 小型電動車用鉛蓄電池の技術指針改訂審議、他。
二次電池第2部会	1日(火)	PL委員会	安全啓蒙施策、事故情報集計。
	1日(火)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討。
	4日(金)	PSE WG	電案法に関わる審議。
	4日(金)	技術委員会	技術全般に係る審議事項への対応。
	8日(火)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応。
	9日(水)	駆動用車載LIB委員会・リユース規格分科会合同会議	車載LIBのリユースに関する検討。リユースガイドライン規格の検討。
	10日(木)	国際電池規格委員会	IEC・ANSI規格対応。
	11日(金)	IEC TC21 MT国際会議(Web)	IEC 62902規格審議。
	14日(月)	リチウム二次分科会	IEC62133-2改正、電安法別表九対応検討。
	15日(火)	二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議。
	16日(水)	普及促進委員会	蓄電池システムの普及促進検討。
	16日(水)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応。
	17日(木)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応。
	17日(木)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討。
	18日(金)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討。
	21日(月)~ 25日(金)	IEC SC21A WG国際会議(Web)	IEC SC21A WG2-WG6規格審議。
22日(火)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応。	
24日(木)	ニカド・ニッケル水素分科会	ニカド・ニッケル水素電池 性能規格の改訂審議。	
一次電池部会	7日(月)	規格委員会	IEC60086-1/-2/-4/-6及びIEC62281の課題審議。
	8日(火)	規格委員会	JIS C 8500/8515/8514 改正審議、22年度事業計画/体制。
	9日(水)	コイン二次分科会	ISO TC114 小グループ会議対応審議。
	10日(木)	技術委員会	各委員会・分科会の活動報告審議、22年度事業計画/体制。
	16日(水)	一次電池部会	各委員会の21年度活動実績報告、22年度活動計画および予算審議。

12月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2021年12月）

単位：数量一千個、金額一百万円（小数以下四捨五入の為、合計があわないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	436,959	107,152	128%	127%	4,665,850	1,084,258	118%	119%
一次電池計	257,674	9,832	109%	113%	2,855,957	102,193	113%	111%
酸化銀電池	54,528	1,075	116%	125%	687,699	13,442	137%	154%
アルカリ乾電池計	126,576	5,401	116%	117%	1,269,541	49,519	102%	97%
単 三	—	—	—	—	—	—	—	—
単 四	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	26,222	1,597	114%	128%	276,711	13,979	110%	94%
リチウム電池	76,570	3,356	96%	104%	898,717	39,232	114%	121%
二次電池計	179,285	97,320	169%	129%	1,809,893	982,065	127%	120%
鉛電池計	2,982	19,380	97%	101%	29,888	188,281	101%	101%
自動車用	2,397	13,627	95%	101%	22,752	122,435	100%	102%
その他の鉛蓄電池	585	5,753	102%	102%	7,136	65,846	106%	100%
アルカリ蓄電池計	47,774	24,412	111%	136%	513,492	232,156	107%	122%
ニッケル水素	45,565	23,861	113%	137%	482,349	225,302	108%	122%
その他のアルカリ蓄電池	2,209	551	82%	113%	31,143	6,854	92%	103%
リチウムイオン蓄電池計	128,529	53,528	213%	139%	1,266,513	561,628	139%	126%
車載用	97,872	40,972	428%	162%	888,663	417,594	163%	133%
その他	30,657	12,556	82%	95%	377,850	144,034	103%	110%

12月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2021年12月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸出）	236,687	63,384	130%	126%	2,673,476	653,720	132%	128%
一次電池計	116,349	3,273	110%	114%	1,303,780	39,427	130%	142%
マンガン	5	0	-	-	2,167	104	-	-
アルカリ	11,104	188	111%	123%	169,352	2,539	148%	137%
酸化銀	50,796	859	120%	121%	549,726	9,351	146%	163%
リチウム	54,443	1,944	102%	102%	582,529	21,120	115%	125%
空気亜鉛	0	0	-	-	0	1	0%	9%
その他の一次	0	282	363%	290%	5	6,313	134%	194%
二次電池計	120,337	60,111	159%	127%	1,369,696	614,293	134%	127%
鉛蓄電池	164	1,241	111%	121%	1,875	13,176	117%	120%
ニカド	325	75	35%	55%	5,547	1,153	55%	84%
ニッケル鉄	0	1	-	-	0	7	1280%	918%
ニッケル水素	14,547	11,145	100%	134%	175,010	109,728	115%	116%
リチウムイオン	94,667	35,631	191%	128%	1,047,353	369,917	141%	140%
その他の二次	10,634	12,017	101%	119%	139,911	120,311	121%	108%
全電池合計（輸入）	135,810	27,489	113%	126%	1,532,359	276,490	95%	124%
一次電池計	126,095	2,052	114%	119%	1,434,468	22,221	95%	93%
マンガン	7,021	89	63%	78%	140,412	1,517	87%	89%
アルカリボタン	3,129	27	126%	129%	24,477	187	57%	57%
アルカリその他	95,972	1,264	117%	127%	1,077,273	13,522	97%	99%
酸化銀	206	7	106%	83%	2,207	77	105%	106%
リチウム	13,399	546	113%	112%	130,348	5,514	98%	91%
空気亜鉛	6,366	87	175%	123%	59,704	1,030	96%	79%
その他の一次	2	31	253%	86%	47	373	91%	57%
二次電池計	9,715	25,436	103%	127%	97,892	254,269	105%	128%
鉛蓄電池	795	4,047	84%	97%	9,366	46,018	109%	117%
ニカド	54	148	117%	147%	697	2,148	116%	154%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	2	5333%	156%
ニッケル水素	2,295	480	78%	99%	25,267	5,044	99%	110%
リチウムイオン	6,504	19,143	119%	134%	61,997	185,944	107%	130%
その他の二次	68	1,619	144%	162%	565	15,113	93%	145%